

県有数の畜産団地に発展

福島県相馬市の副^{ふくりょうぜん}霊山開拓は、県北東部の宮城県との県境に位置する。

標高500～600mの山間部で、冬には30～40cm程の積雪となる。

先遣隊が、西側にあった伊達郡霊山村（現霊山町）から、山越えして同地に入植したのが46年。それから満州や樺太などからの引き揚げ者など122名が入植した。48年には副霊山開拓農業協同組合が設立された。

入植当初は、国有林の伐採から始まった。その後、まず自分たちが食べる物から作付し、小麦、ダイコン、ジャガイモなど、季節ごとに生産した。

53年から2年続けて大冷害に見舞われ、主要農産物の収穫が皆無となってしまった。そのため、道路建設や、営林署の払下げの薪炭事業でなんとか生活苦を切り抜けた。

山間地という立地条件を考慮した上で、主穀物生産体制から主畜生産体制に切り替わっていき、54年に乳牛21頭が導入された。

数名が北海道に一年間研修に行き、戻ってからは指導員として酪農指導に当たるということが、3期ほど続いた。開拓者全員が一致団結して取り組んだ結果、57年5月、ついに牛乳の初出荷が実現した。一時期は、農家全戸が酪農を営むというまとまりをみせた。

67年には副霊山ブロイラー組合が発足、開拓組合、食品工場の三社契約で養鶏事業も軌道に乗った。酪農と共に努力し合い、県下に誇る畜産団地に発展していった。

また並行して、高冷地の特色を生かした、種ジャガイモ、種タマネギなどの採種ほ場の拡張も推進した。

96年に開拓50周年記念碑が建てられ、高冷地農業の悪条件を乗り越えての繁栄を讃えた。

この地域は、11年の福島原発事故の際も避難区域に当たらず、現在も多くの農家が営農を続けており、活気のある町となっている。

副霊山（ふくりょうぜん）開拓 07-209-1

①調査日 令和6年7月23日

②所在 福島県相馬市玉野副霊山 309（宮城県に近いところ）

③地区の沿革 伊達郡霊山村の有志である若者達が先遣隊として、昭和21年この地に踏み入りその後外地からの引き揚げ者など入植。入植者122名。

④設置年月日 平成8年9月29日

⑤設置者 副霊山開拓記念碑建設委員会

⑥碑文（表面） 副霊山開拓記念碑

戦後の開拓事業は敗戦日本祖国再建の為国策の一環として緊急開拓が叫ばれ開拓事業に着手、民族生存の基となる食糧増産が開始された。/達郡霊山村の有志である若者達が先遣隊として、昭和21年この地に踏み入りその後外地からの引き揚げ者など入植した同志122名の拓友一同は一心同体 相互扶助の精神で生命の限りをつくして山野に開拓のくわを降ろし、風雪50年の厳しい自然条件と戦いながら幾多の変遷を経て高冷地農業の悪条件を乗り越えて新しい村づくりに努力して今日の繁栄をみるに至りました。/この期にあたり拓友一同の方々と相諮り副霊山開拓事業を記念し、開拓の碑を建立しこの偉業を永く後世につたえるものである。

平成8年9月29日 副霊山開拓記念碑建設委員会

⑦碑文（裏面） 上段に福霊山開拓入植者名、副霊山開拓記念碑寄付御芳名、副霊山開拓記念碑建設委員会の委員の名が刻まれている。

⑧現在の状況 記念碑の隣には副霊山神社があり、その隣には㈱JAふくしま未来サービス玉野SS、道の反対側にJAふくしま未来玉野出張所がある。傍には山村広場（第三期山村振興農村漁業対策事業による）がある。玉野公民館まで2.5km。